

西山家穀櫃



〔指定年月日〕昭和五七年二月一日
〔種別〕有形文化財（歴史資料）
〔名称〕西山家穀櫃
〔点数〕一箱
〔所有者等〕個人
〔所在地等〕上井草四丁目

西山家穀櫃

桁行三・〇三m、梁間一・五二m、高さ一・五六m、当時の寸法値で言えば一〇尺×五尺×五尺の大きさで、土台はケヤキ、他はスギである。

この穀櫃は飢饉に備えて穀物を貯えたもので、天保一五年（一八四四）一〇月に西山家の祖先である上井草村字谷頭の西山助右衛門が作ったものである。天明の飢饉以後、幕府は各地方の事情に応じて数箇村から一箇村、組などを単位に穀櫃や穀倉を作らせ、主に稗を貯えさせる政策をとった。西山家穀櫃もそうした状況のもとで作られたものである。

穀櫃は現在屋根がのせられているが、本来は屋根はなく納屋内または軒下に置き、三箇所に仕切られた内部に天井（半分が上げぶたになっている）から穀物を入れるようになっており、取り出し口は土台上部にあつて、板を押して取り出す構造であつた。

本穀櫃は製作年代が内部の板壁に墨書され、ほぼ完全な外観を整えたものとしては区内唯一の例で、江戸時代の農村杉並の生活の様子を伝える好資料である。

【文化財所在地】

